上智学院教職協働レンコンプロジェクト

「は・た・ら・く」ことの意味を考える

TSUMUGU “BITO” Project

TSUMUGU“BITO” Projectの目的

制度・政策・支援の網からこぼれる医療・福祉・教育の問題を

独自の文脈で「日常生活」のなかに捉え直したうえで、

解決に向けてアイディアや方法を開発・実践している当事者や、多分野多業種の人々を「つむぎ」、

さらに大きな課題を解決するための「協働」を作り上げること

年次テーマ

・2014年「学びと連携」
上智生命科学研究所との共催

・2015年「ケアの本質を考える」

・2016年「小さな協働を大きな協働に」
上智学院の教職協働イノベーション
研究「レンコンプロジェクト」との共催

TSUMUGU“BITO”の定義

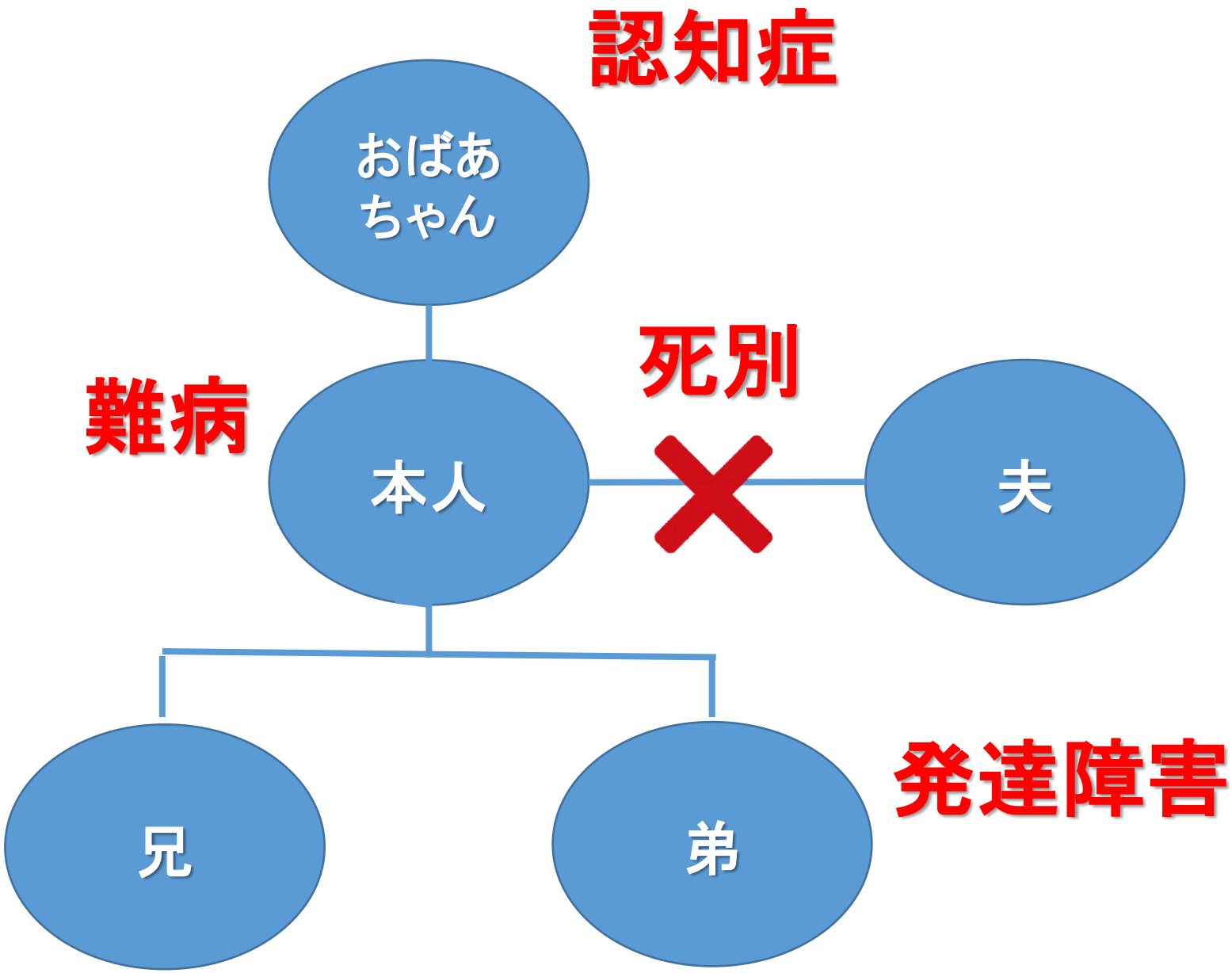
困難を抱えている本人や家族に対して、

目の前にある問題だけでなく、今後問題となりうる課題も含めて、

生涯に渡って問題解決のためのコーディネートをしていく人たちのこと

TSUMUGU“BITO”の視点

- 家族関係の中に包含されている困難
- 目の前の生活問題だけでなく、
  生活に困難をもたらしている物事や，
  放っておくと生活困難をもたらすことが
  予測される課題
- 経済問題と健康問題が重要


認知症
おばあちゃん
死別
難病
本人
夫
兄
弟
発達障害

きょうだいの問題

経済困難

虐待

難病

介護離職

不登校

死別ケア

認知症

シングルマザー

親の介護

ヤングケアラー

発達障害

昨年は

「ケアの本質」を考える

若年認知症、難病、発達障害・・・

- ポテンシャルはあるのに社会に受け入れられない人が多い
- 手帳取得を勧められるが、能力に見合った仕事が遠ざかる、福祉就労に方向付けられてしまう
- 能力に凸凹がある人を生かしきれない社会・街自体を変えないと

- ハンデを抱えたまま自己実現を目指す当事者に寄り添っていない
- 制度の狭間に落ちている。
- 誰しも得手不得手があるはずなのに、その人らしさに制度・組織が対応していない

今年は

「は・た・ら・く」の意味を考える

「一億総活躍社会」

「働き方改革」

一億総活躍推進室

一億総活躍社会の要旨

- 人生は十人十色であり、価値観は人それぞれ
- 障害や難病のある方、誰もが活躍できる、いわば全員参加型の社会
- 社会政策ではなく、究極の成長戦略
- 全ての人が包摂される社会の実現
- 多様な個人の能力の発揮による労働参加率向上やイノベーションの創出
- 既卒者が冷遇される「壁」、再チャレンジを阻む「壁」、子育てや介護との両立という「壁」を取り除く

政府の「働き方改革」

(1)同一労働同一賃金の実現

(2)長時間労働の是正

(3)高齢者の就労促進

(4)障害者やがん患者が働きやすい環境の整備

当事者側の現状

- 障害者雇用という枠組みでは包含できない「困り」の種別が増えている
- 定型の「はたらく」かたちに適応できない人が増えている
- 本人が抱える「困り」を理解してもらえない職場が多い
- 自身の経験や環境で職業選択を考えてしまう
- 知的レベルの高さに反して社会教育が必要な人が増えている

困りを抱えている当事者が、

自らがアクションを起こし、周りの人々と繋がり環境づくりを行う

当事者が社会で活躍することで、

他者に配慮できる社会（インクルーシブな社会）、

多くの人が自分らしく活躍できる社会

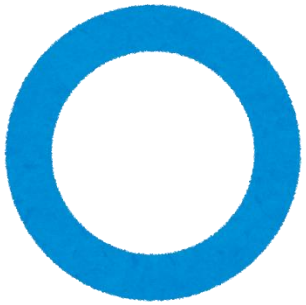
の実現を果たす

目指すものは

インクルーシブな社会

“は･た･ら･く”の定義

働く（経済活動）



社会参加

何のために「は・た・ら・く」？

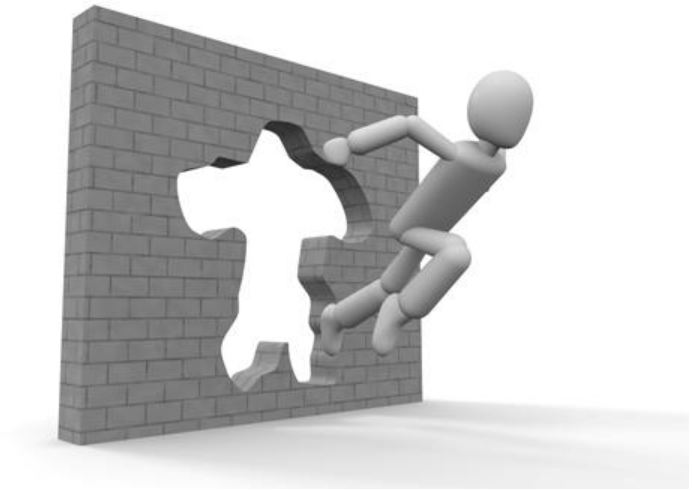
自身が得るもの

- お金
- 社会との関係性を築く
- 能力を磨く
- 経験を積む
- 人とつながる、仲間ができる
- 居場所ができる

働くための「場」をつくる（支援）ではなく、

「は・た・ら・く」ための壁（課題）を可視化し、

取り除くために必要な手立て（解決策）につなげる



自分や周囲が感じている・経験した「壁」

- 内面的な壁
- 外的・物理的な壁

はたらく

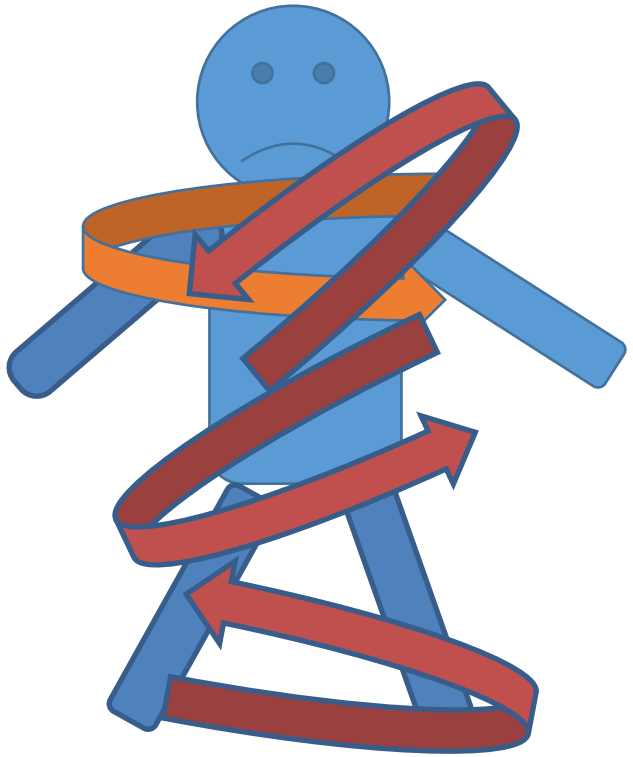
「はたらく」ための環境整備

健康
身体・精神・社会

「生きずらさ」
「自己肯定感」
「こころ」
を解放するための環境整備

家族の要因

- 親の介護
- 兄弟姉妹の障害
- 伴侶の死別



本人の要因

- 発達障害（障害）
- 希少難病（病気）
- ひきこもり（不登校）

能力があるが様々な環境要因で活躍できない
日々生きずらさを感じ苦しんでいる多くの当事者

話題提供者

香取久之さん	希少難病当事者 / 希少難病ネットつながるRDneT理事長
黒岩堅さん	発達障害当事者
松島裕之さん	不登校経験者 フリースクール全国ネットワーク事務局長
和氣美枝さん	認知症のある老親の家族介護者（母親） 介護離職防止対策促進機構代表理事
持田恭子さん	障害者の家族介護者（きょうだい）/ ケアラーアクションネットワーク代表
朱亀佳那子さん	（若い世代での）伴侶死別の経験者 die-a-log LABO代表

石井京子さん	テスコ・プレミアムサーチ株式会社代表取締役 一般社団法人日本雇用環境整備機構理事長
西牧謙吾さん	国立障害者リハビリテーションセンター病院・院長
林哲也さん	さいとうクリニック　医師・ライムライト代表
小野寺敦志さん	国際医療福祉大学院・臨床心理学・准教授
関由起子さん	埼玉大学教育学部・准教授
和栗 三雄さん	アステラス教育総合研究所 グリーンサプライ支援室・室長

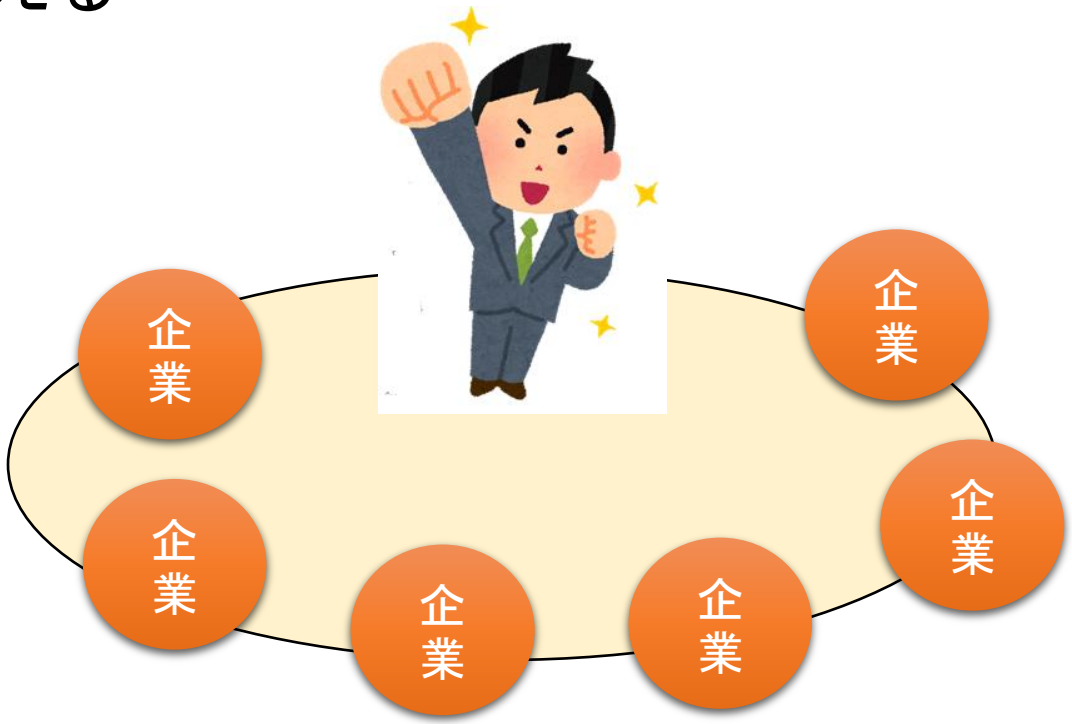
多様な働きができる社会的整備（法・制度・政策）

社会的自立のため要素の獲得（社会教育）

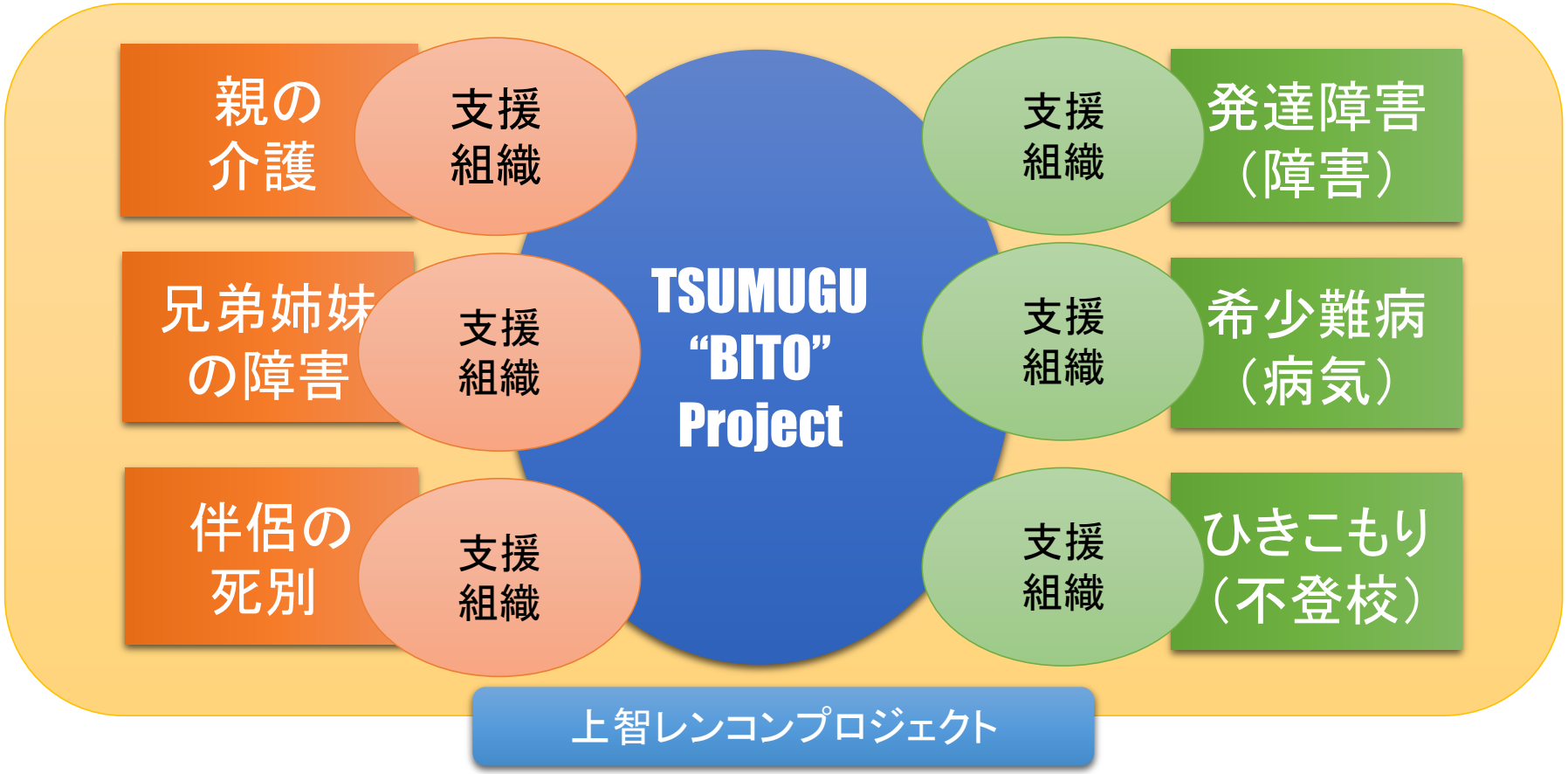
壁を考える前提

- 既存の働き方（企業組織型就労、時間管理など）に囚われない
- 多様なはたらき方をゼロベースで
- ワークライフバランスの両立を本当に実現するために
- 企業にこうなって欲しいではなく社会をこう変えれば
- 新しい働き方（就労形態）を提案するつもりで

- 自己肯定感をもって生きることが出来る
- 働き方のバリエーションが増える
- 価値を生み出す働くかたち（種類）が増える
- 結果として納税者が増える



6つのテーマの共通課題を、プロジェクトと協働として各支援組織と様々な実践（ワークショップ、アンケート、プログラム開発、プラットホームづくりなど）を行い、大きな協働につなげていく



- 今回のイベントで顕在化した課題（共通・独自）を整理して、１２月の定例会の２０１６年の総括の中で報告する。

- 来年の定例会で課題解決に向けた検討を行う。

TSUMUGU”BITO”＜第25回・26回＞

＜第25回＞
日時：11月11日（金）午後7時～8時半
場所：東京在宅サービス　3階研修室
テーマ：『（仮題）地域につなぐ情報資源～生活を支えるための情報提供の在り方を考える～
話題提供者：scuel 代表　前田健太郎さん

＜第26回＞
日時：12月9日（金）午後7時～8時半
場所：東京在宅サービス3階研修室
テーマ：『2016年のまとめ』
話題提供者：TSUMUGU”BITO”　主宰　榎本哲さん